

将来に向かって積極的に行動するためのインターンシップ

「U高等専門学校：制御情報工学科・准教授」

本校では、企業等での就業体験を通して、学生の学習意欲を向上させるとともに、高い職業意識を涵養し、責任感や自立心などを醸成することを目的としてインターンシップを実施しています。本科では4・5年生の選択科目「校外実習」として、専攻科では必修科目「インターンシップ」としてインターンシップ関連科目を開講しております。昨年度より、本科では、従来の5日以上(18日未満)の短期インターンシップを1単位の「校外実習Ⅰ」として、新たに18日以上(長期インターンシップ)を3単位の「校外実習Ⅱ」として新設しました。また、専攻科の「インターンシップ」においても、従来の15日以上(長期インターンシップ)期間を20日以上に改め、日数に応じて3単位から最大で12単位まで修得できる制度へ変更しました。これらの変更は、長期インターンシップとして1ヶ月以上に渡り業務に関わることによって、企業等の活動理解の促進、社会人としてのコミュニケーション能力の獲得、自身のキャリア・デザインの明確化を図ることを目的としています。今年度は、多くの企業等のご協力により、昨年度に比べて長期インターンシップの参加学生が増加しています。

インターンシップ参加学生には、事前教育への参加、報告書の作成、報告会での発表を義務づけています。事前教育はキャリア支援室が中心となり、参加の目的や意義、提出書類、ビジネスマナー等の説明および企業人による講話を実施しています。受け入れ先の決定後から事後の指導までは、短期については、本科生はクラス担任が、専攻科生はキャリア支援室が担当し、長期については、受け入れ事業所ごとに割り当てられた教員が担当します。県内インターンシップでは、可能な限り事前に企業を訪問し、研修の内容を確認すると共に、就業時間、服装などの打ち合わせを行っています。実習後は報告書を作成し、担当教員が内容を確認した後、企業の方に最終確認をお願いしています。また、報告会を実施し、インターンシップで得られた成果、課題等を報告します。

本科では、選択科目であるものの、4年生のインターンシップへの参加学生は増加傾向にあり、本年度は4年生の学生210名中194名(92.4%)がインターンシップに参加しました。山口県インターンシップ推進協議会を通じて、県内企業等での短期インターンシップに参加した学生数は4年生65名で、長期インターンシップに参加した学生数は4年生14名、専攻科生6名でした。

インターンシップを終えた学生は、働くということの大変さや厳しさを実感し、学生と社会人の違い、ビジネスマナー・コミュニケーション能力の重要性、自分に足りない能力等に気づいたという感想を報告書に書いていました。また、多くの学生は、懇談会などで社員の方々から仕事の話だけでなく、学生時代から現在に至るまでの話などを直接聞くことができたり、進路について相談に乗っていただいたりしていました。進学・就職を目前にした学生にとって、インターンシップは、今後の学生生活の取り組みを含め、自身のキャリア・デザインを明確にし、その実現のための目標や課題を考える機会になっていることが報告書からも読み取ることができます。

最後になりましたが、学生をインターンシップ生として受け入れていただきました事業所の皆様、事前研修及びマッチング等でご支援いただきました山口県インターンシップ推進協議会の皆様に厚く御礼申し上げます。今後も引き続きご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

さらに高まるインターンシップへの期待と現状

「T高等専門学校：土木建築工学科・准教授」

1. 本校のインターンシップ（校外実習）概要

本校では、第4学年の夏休み期間中（8月中旬～9月中旬）に3学科とも校外実習を選択科目として開講しており、本年度も多くの学生が参加した。実習期間も学生によって異なっているが概ね1～2週間であり、期間によって単位数が異なる。本校では基本的に、実習先の希望調査（4～5月）からマッチング（5～7月）、学生への連絡、書類作成指示・確認、報告会の実施、成績評価という一連の流れとなっている。実習先の希望調査の段階では、学校へ連絡があった企業の他に前年度の実施内容も重要な項目となっている。



写真 報告会で成果を報告する学生

企業や官公庁からも、校外実習に対する期待はますます高まっており、問い合わせを行ったほとんどの企業からは、快く校外実習の受け入れをして頂いた。非常にありがたく思う一方で、これら一連の手続きを担当が中心となって進めるため、担任教員の負担が非常に過大となっている。しかしながら、卒業後の進路選択を考える上で学生にとっても有意義な機会であり、社会全体の熱意に後押しされる形で、今年も多くの学生が校外実習を体験できたことを関係各位に感謝を申し上げたい。

2. 平成30年度の履修状況

機械電気工学科：履修27名/40名中（履修率68%）、実習先のべ数：28（県内10(2)/県外18）

情報電子工学科：履修38名/45名中（履修率84%）、実習先のべ数：30（県内1(0)/県外29）

土木建築工学科：履修41名/41名中（履修率100%）、実習先のべ数：64（県内18(9)/県外46）

※ 県内（ ）内の数字は山口県インターンシップ推進協議会の利用者数

本年度、校外実習の履修率は土木建築工学科で100%、情報電子工学科が84%、機械電気工学科が68%となった。県内企業での実習は、実習のべ数で考えると機械電気工学科が10、土木建築工学科が18であり、情報電子工学科が1名であった。情報電子工学科が少ない傾向は、例年と変わっていない。土木建築工学科では、企業と官公庁の両方を経験してみたいという学生や、県内と県外、複数の県外など様々な組み合わせで経験してみたいという学生が多く、実習先の延べ数が多くなった。これら複数の組み合わせに共通して言えることは、「1度は大手企業を見てみたい」と考える学生が多かったように思われる。

3. インターンシップ報告会

実習後には学科単位で報告会を実施しており、学生が互いの体験や感想、学んだこと等を自由に発表しあうことで、多くの企業や官公庁の情報を得ることができた。自由に意見発表を行う事で、会社パンフレットの内容だけでなく同業他社や異業種に対する良き情報共有の場となった。今後も学生側、受け入れ側の双方からもインターンシップに高い関心が寄せられていくことが予想され、ますますその重要性が高まっていくことが予想される。

学校生活と職場体験

「〇高等専門学校：電子機械工学科・准教授」

学生にとって、日頃の学校生活は大きな成長の場です。試験で良い点数を取って成績を上げる、雨の日も風の日も遅刻しないように通学する、レポートを期日までに提出する、授業・実験実習、課外活動、友達とのつきあいなど、当たり前のことを続けることで、知らず知らずのうちに学生は成長しています。学校生活は社会に出て自立するための専門能力や技術を身につける基本的な場で、高専5年間を過ごします。一方、インターンシップはマンネリ化した学校生活を離れ、企業や大学などの外部機関での実習や職場を体験する機会です。本校ではインターンシップの単位を4学年以上、基本的に夏休み5日間以上の実習を条件として1単位認定していますが、意欲的な学生は4週間の実習にも参加しています。インターンシップの目的は、実社会の業務や高度な研究に触れ、訓練を積み、就職や進学へ結びつけることですが、単純に「就職、進学に向けての準備」と考え、できるだけ多くの学生が参加するように指導を行っています。

インターンシップに参加するには、次のようなことを学生が自分で進める必要があります。

- ・学校に届く資料や情報を参考にしながら、インターンシップに応募する先を決める。
- ・受け入れ先の担当者、本校の学級担任、学生課の職員、保護者と必要な連絡を取る。
- ・エントリーシート、履歴書の提出や単位申請などの手続きを行う。
- ・インターンシップ先へ移動、宿泊、インターンシップ先で職場体験する。
- ・インターンシップ報告書の提出、発表を行う。

インターンシップ先をどこにするかには、いろいろな考え方があります。希望の進路が具体的に決まっていれば、その会社や大学、その業種と関連した職場。具体的なものがなくても、日程や地域から自分で絞り込むなどして決めます。応募の前には、保護者へ了解をもらっているか確認することも大切です。現在、ありがたいことに空前の売り手市場となっており、インターンシップが就職と結び付くケースも多くなっています。そのため、学生に就職の意向も聞いておく必要があります。また、学生個人が単に職業体験するという視点ではなく、受け入れ側のこと、学校のOBや将来に与える印象にも配慮して行動するよう、話しておくことが重要です。

インターンシップを終えた学生からの体験報告を読むとマイナスとなる記述はなく、「職場での実習の内容に興味を持ち、今後の学習や資格取得の意欲が湧いた。」「職場の方、他校の学生の話聞いて、日常生活を改善したい。」など、学生にとってプラスとなった内容ばかりです。インターンシップへ行く前は気が進まなかった学生も、職場体験できてよかったと好印象となっています。

現在、国際的に活躍できる人材の育成、地域を支える若い人材の育成が求められ、様々な取り組みも行われています。しかしながら、売り手市場でテレビに登場する名の知れた企業からの求人も増えており、県内企業への就職は減少傾向にあります。しかしながら、山口県インターンシップ推進協議会の皆様には、インターンシップ前のマナー教育から県内企業への職業体験まで幅広くご尽力いただいております。県内就職へつなげる窓口として重宝しております。この場を借りて、山口県インターンシップ推進協議会の皆様に厚くお礼を申し上げます。